

令和2年度 今治市自立支援協議会就労部会の学習会概要

日時：令和2年9月17日 13:30～15:00

場所：今治市総合福祉センター4階多目的ホール

対象：障害福祉に携わる方

タイトル：…支援とは何だろう…「支援の視点を変えたら彼の人生が変わった」～事例から考える 一般就労編～

記念すべき今年度第一回目の学習会の話題提供は今治ワークスさんでした。就労移行支援で、なかなか就職に向けた支援が出来ず、このままではいけないと支援体制を再編。その過程での成功事例を通して、支援者として気づいたことを発表していただきました。担当者一人ではなく、複数のスタッフで本人の意向を引き出し、チームとして支援方法を考えたという部分に多くの参加者が共感していました。

その後、話題提供をもとに各自が振り返りを行い、その中での気づきをグループワークで共有していきました。以下に、ワークで出た意見をいくつか紹介します。

- ・支援者主体ではなく、本人主体で支援が出来ているだろうか。
- ・支援側が包括的に支援を進めて行かなければならない。
- ・就職先(企業)が就職後のフォローをどのようにするのか体制の把握が必要。
- ・保護者の理解(本人の能力に親が決めつけている所がある)を得るための支援が必要。

コロナ禍中の学習会ではありましたが、28名の方にご参加いただきました。また、たくさん質問をいただき、時間内におこたえできませんでしたので、別途Q&Aをアップいたしております。そちらもご確認ください。

ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

令和2年9月17日 今治市自立支援協議会 就労支援部会 質問事項

Q1>支援初期段階で特に難しかったことは

A>ニーズの引き出し方、エンパワメントの視点を持つ事

Q2>企業(従業員)へのフォローはどのような形で実施しているか

A>定期訪問、定期連絡等での丁寧な聞き取り

Q3>本人の特性やイレギュラーなことが起きた時の対応

A>企業さんやご本人から聞き取り等を行い、原因を探る

原因によって対応は異なりますが、同じことが起こらないよう企業、本人と調整する

Q4>企業アセスメントは実施したのか。仕事の切りだし方とか。

A>今回の事例に関しては企業アセスメントはしていません。

今回の事例については洗車作業のみの切り出しで事前に企業様がされておりました。

Q5>本人と従業員とのコミュニケーションは。

A>従業員さんの人柄もあり、現在は円滑にできているようです。

Q6>トライアル支援についてポイント、大切な事はなんですか？

トライアルの始め トライアルの中間 トライアルの最後

A>トライアル雇用制度についてはハローワーク様へお尋ねください。

トライアル期間中の支援に関しては定着支援と同様です。

Q7>本人が自信が持てない 不安だと感じてしまい就職を拒否「選択」した場合、

私たちサポート側はどうすればよいか？

A>本人が自信を持てない理由、不安だと感じる理由を知る必要があると思います。

もし理由の一つに自信が持てないという理由があれば体験実習等を入れ、自信を少しずつつけていってはいかががでしょうか

Q8>ワークスさんの改革のきっかけはどのようだったのですか。

A>当時就労移行を利用していた方がB型利用者の近くで作業をしていた際、B型の方は座っている作業をしている中、移行の方も座って作業をしようとしていた。支援員としては作業の基礎体力向上のため立って作業をしていただきたいという思いがあったが、就労移行利用者さんにだけ立って作業するよう指示する事に懸念があり、就職支援を円滑にするためにもB型と移行は見えない位置で作業できた方がいいのにねという話がでたのがきっかけだったと思います・・・。

Q9>どのような形にしようとしたのか、もしくは その過程をどのように決めたのか、教えて頂けますか

A>どのような形は想定していませんが、就職までの流れを作りたいという思いはありました。